

第9回早石修記念賞

公益財団法人 小野医学研究財団（理事長：川辺 和一）は、2025年11月26日（水）に開催されました理事会において、青木 淳賢 博士に「第9回早石修記念賞」を贈呈することを決定いたしました。受賞者には、正賞（楯）、副賞500万円が贈られます。

贈呈式および記念講演会は、2026年6月13日（土）午後5時00分より、千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて執り行われる予定です。

《受賞者》

青木 淳賢（あおき じゅんけん）博士

東京大学大学院薬学系研究科
衛生化学教室 教授



《受賞対象となった研究業績》

「生理活性リゾリン脂質の产生・作用メカニズムの解明と医療応用」

青木博士は、生理活性脂質「リゾリン脂質」に着目し、その受容体および产生酵素の世界初の同定、ならびに生理・病態機能の解明を通じて、「リゾリン脂質メディエーター」という新たな研究分野の確立に大きく貢献した。LPA や LysoPS などのリゾリン脂質が情報伝達分子として働くことを明らかにし、LPA 受容体（LPA₃/EDG7等）や LysoPS 受容体、LPA 产生酵素（オートタキシンATX、PA-PLA₁α）、LysoPS 产生酵素（PS-PLA₁）を世界に先駆けて同定している。また、これらの分子のノックアウトマウスを用いた解析により、LPA-受容体経路が発生、血管形成、毛根形成、免疫制御など多様な生理・病態機能に関与することを解明された。さらに、LPA₆受容体や ATX の立体構造解析を通じて、リガンド結合様式を原子レベルで明らかにし、創薬や脂質受容体標的薬の開発に道を拓いた。独自開発した GPCR 活性化測定法「TGF α 切断アッセイ」により LysoPS 受容体の同定に成功するとともに、この方法は Orphan GPCR のリガンド解明にも大きく貢献した。さらに、リゾリン脂質や产生酵素を疾患バイオマーカーとして応用し、ATX が肝線維化の診断マーカーとして実用化されるなど、基礎から臨床応用まで幅広い波及効果をもたらした。

これらの業績は生命科学・医学分野に大きく貢献するものであり、早石修記念賞受賞にふさわしいと考えられる。

《略歴》

昭和 62 年	東京大学薬学部卒業
平成 元 年	東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了 (井上圭三教授)
平成 4 年	東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了 (井上圭三教授)
平成 4~7 年	東京都臨床医学総合研究所研究員 (野本明夫部長)
同 7~12 年	東京大学大学院薬学系研究科助手 (井上圭三教授)
同 12~19 年	東京大学大学院薬学系研究科助教授 (新井洋由教授)
同 17~20 年	JST さきがけ研究員
同 19~令和 2 年	東北大学大学院薬学研究科教授
令和 元~2 年	東北大学研究教授
令和 2 年~	東京大学大学院薬学系研究科教授
平成 26~30 年	AMED-CREST 研究開発代表者
平成 30~令和 4 年	AMED-LEAP 研究開発代表者